

# 鶴見大学紀要

第 60 号

第 1 部 日本語・日本文学編

## 目 次

建仁元年『石清水社歌合』注釈 .....	田口暢之	( 1 )
大僧正隆弁の和歌注釈稿 .....	中川博夫	( 55 )
読者論は可能か ——高野文子『黄色い本 ジャック・チボーという名の友人』を読む—— .....	奥村英司	(149)
W.G. アストン『日本文語文典』初版 訳注稿 (3) .....	遠藤佳那子	(左 6)
鶴見大学紀要投稿規程 .....		(左 3)
〔彙 報〕 .....	教員研究業績一覧	(左 1)

# 鶴 見 大 学

2023 年 3 月 (令和 5 年 3 月)

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY

VOLUME 60 PART 1

STUDIES IN JAPANESE LANGUAGE AND  
LITERATURE

CONTENTS

TAGUCHI Nobuyuki :

A Study of Kennin Gannen Iwashimizusha Uta-awase with Annotation

NAKAGAWA Hiroo : Study of Ryuben's waka poems

OKUMURA Eiji :

Possibility of readership -Observation of TAKANO Fumiko's

\*The Yellow Book - A Friend Named Jacques Thibault\*-

ENDO Kanako : A Japanese Translation with Notes:

*A Grammar of the Japanese Written Language* (1st ed.) by W.G. Aston (3)

MARCH 2023

# 鶴見大学紀要

第60号

第1部 日本語・日本文学編

鶴見大学

## 鶴見大学紀要投稿規程

(趣旨)

**第1条** 鶴見大学（以下「大学」という。）および鶴見大学短期大学部（以下「短期大学部」という。）において研究または教育に従事する者の成果を紀要に公表することについて定めるものである。

(投稿資格)

**第2条** 紀要に投稿できる者は、原則として、大学および短期大学部において研究または教育に従事する者およびこれと共同で研究に従事する者とする。

(投稿原稿)

**第3条** 原稿は、未刊行のものに限る。定期刊行物（学術雑誌、商業雑誌、大学・研究所紀要など）や単行本として既刊、あるいは、これらに投稿中の原稿は本紀要に投稿できない。ただし、学会発表抄録や科学研究費などの研究報告書はその限りではない。

(紀要の部編)

**第4条** 紀要の部編は4種類とし、その邦文及び欧文の標題は次のとおりとする。

- 一 鶴見大学紀要 第1部（日本語・日本文学編）  
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 1  
(STUDIES IN JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE)
- 二 鶴見大学紀要 第2部（外国語・外国文学編）  
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 2  
(STUDIES IN FOREIGN LANGUAGES AND LITERATURE)
- 三 鶴見大学紀要 第3部（保育・歯科衛生編）  
THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 3

(STUDIES IN INFANT EDUCATION AND DENTAL  
HYGIENE)

四 鶴見大学紀要 第4部 (人文・社会・自然科学編)

THE BULLETIN OF TSURUMI UNIVERSITY PART 4  
(STUDIES IN HUMANITIES, SOCIAL AND NATURAL  
SCIENCES)

(発行の回数)

**第5条** 紀要は、年度内に1回発行することを原則とし、その時期は年度末3月とする。

(提出原稿)

**第6条** 原稿の作成は、紀要刊行内規で定められた投稿要綱に従うものとする。

(原稿の提出先)

**第7条** 原稿は、投稿する部編の紀要委員に提出するものとする。

(原稿の提出締切日)

**第8条** 原稿の提出締切日は、部編により別に定める。

(編集)

**第9条** 編集は、紀要委員会が行うものとする。

(別刷)

**第10条** 50部を超える別刷の費用は、著者が負担するものとする。

(著作権)

**第11条** 紀要の公開にともなう、複製権および公衆送信権に関わる著作権の行使は、原則として大学および短期大学部に帰属する。ただし、著者が自分の論文等を利用することは差し支えない。

二 論文等の全部あるいは大部分を他の著作物等に利用する場合には、その旨を大学および短期大学部に申し出ると共に、出典を明記する。また、一部分を利用する場合にも、文献あるいは図説の下に出典を明記する。

三 掲載された論文等の執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの

鶴見大学紀要投稿規程

指摘がなされた場合には，著者がその責任を負う。

**附 則** この規程は，平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

# 〔彙報〕

## 教員研究業績一覧 (2022・1～2022・12)

遠藤佳那子

### 【口頭発表】

- ・「文語訳聖書に見られる破格表現「死ねり」をめぐって」 第2回聖書翻訳研究会（オンライン開催、2022年8月30日）
- ・「文語訳聖書における「死ぬ」の四段活用化について」 第224回青葉ことばの会（オンライン開催、2022年9月17日）

### 【論文等】

- ・「W.G. アストン『日本文語文典』初版 訳注稿（2）」 『鶴見大学紀要』（日本語・日本文学編）59号 2022年3月
- ・「聖書翻訳におけるヘブライ語動詞連鎖の訳出—明治元訳を中心に—」（共著：遠藤佳那子、高橋洋成） 『論究日本近代語 第2集』 勉誠出版 2022年3月
- ・「林圀雄「一段の活」に属する用言」 『国語語彙史の研究 41』 和泉書院 2022年3月
- ・「活用形のなまえ—未然形—」 『鶴見日本文学会報』 89号 2022年3月

奥村英司

【その他】

「読者はどこにいるのか」  
王朝文学の異端児を読む  
(陣野英則著『堤中納言物語論』の書評)  
『図書新聞』3561号  
2022年10月8日発行  
pp.4

中川博夫

中書王御詠新注  
僧正公朝の和歌注釈稿補遺(続)  
鎌倉期関東歌壇と道歌  
百人一首の現在  
(田淵句美子・渡邊裕美子と共編著)  
青簡舎 2022・1  
『鶴見大学紀要』(第一部 日本語・日本文学編) 59 2022・3  
『日本文学』71-5  
2022・5  
青簡舎 2022・10

田口暢之

「鶴見大学図書館蔵『遠嶋百首抄』翻刻・校異」  
「『六条修理大夫集』注釈(二)」  
「配所における後鳥羽院詠—冷泉家時雨亭文庫蔵『後鳥羽院百首(遠嶋百首)』をめぐって—」  
「『百人一首』と『百人秀歌』の研究史—撰者説を中心に」  
(鶴見大学紀要第1部日本語・日本文学編59、2022年3月)  
(鶴見日本文学26、2022年3月)  
(中世文学67、2022年6月)  
(中川博夫・田淵句美子・渡邊裕美子編『百人一首の現在』青簡舎、2022年)



## 本号執筆者一覧

- |        |                |
|--------|----------------|
| 田口 暢之  | (文学部准教授・国文学)   |
| 中川 博夫  | (文学部教授・国文学)    |
| 奥村 英司  | (短期大学部准教授・国文学) |
| 遠藤 佳那子 | (文学部講師・日本語学)   |

## 前 号 目 次

憑依の文学 ——『源氏物語』の物語論から——	奥村英司
鶴見大学図書館蔵『遠嶋百首抄』翻刻・校異	田口暢之
僧正公朝の和歌注釈稿補遺（続）	中川博夫
河竹黙阿弥作『双蝶色成曙』をめぐって	
——「お竹大日如来」の歌舞伎化——	神林尚子
『呂氏春秋』の形成	田中智幸
静嘉堂文庫蔵陸氏十萬卷楼本『開元天宝遺事』	
——略解題・簡校——	高田信敬
W.G. アストン『日本文語文典』初版 訳注稿（2）	遠藤佳那子
鶴見大学紀要投稿規定	
〔彙 報〕	教員研究業績一覧

鶴見大学紀要 第六〇号

第一部 日本語・日本文学編

二〇三三年三月一〇日 印刷  
二〇三三年三月一五日 発行

発行人 中根正賢

印刷所 三美印刷株式会社

116 0013 東京都荒川区西日暮里五―十六―七

電・東京(3803)三三三一

発行所 鶴見大学

230 8501 横浜市鶴見区鶴見二―一―三

電・横浜(045)581―一〇〇一代